

「若旅★授業」京都学園大学(2018.5.31) 実施報告

近畿運輸局第10回目の「若旅★授業」を、平成30年5月31日(木)に京都学園大学バイオ環境学部1回生79名の生徒を対象に実施しました。講師として、一般財団法人京都ユースホステル協会の佐藤隆芳事業部長をお招きし、『若旅授業の意義と素晴らしさ』をテーマに授業をしていただきました。

佐藤さんは10代後半にグラフィックデザインを学び、デザイン事務所に勤務し広告デザインの世界で活躍されてました。旅行に出ることがほとんどなかった佐藤さんですが、ワーキングホリデーでオーストラリアにいる友人に誘われ、初の海外一人旅を体験されました。それがきっかけとなり、旅の素晴らしさに目覚められ、その後、約2年間国内外を放浪する旅に出られました。そういった体験をもとに、人との出会い、旅の素晴らしさについて、講義していただきました。



現在、佐藤さんは京都ユースホステル協会の事業部長として、外国の人々の交流事業や旅行事業などを運営する傍ら、「京都の住民がガイドする京都のミニツアー『まいまい京都』」の活動にも取り組んでいることに触れられました。このツアーは7年前にスタートし、「まいまい」とは「うろうろする」という意味の京ことばであり、地元住民が愛を込めて自慢する、個性のかつバラエティーに富んだ100人を越えるガイドがいることを紹介していただきました。最初は31コースだったものが、現在700コース以上の規模になっていること、今では、京都地域だけでなく、大阪や東京でも実施していると話され、特徴として、このツアーには共通の趣味や好きなモノを通じて参加される方が多いこともあり、独自のコミュニティを作ったり、参加者同士の結婚にもつながったことも話されました。

冒頭で、ユースホステルについて少し紹介していただきました。世界には、およそ4,000のユースホステルがあること、また直接運営に関わられている「京都市宇多野ユースホステル」の美しい写真を見せていただき、このユースホステルが優良な施設として、過去に3回世界一になったことを教えていただきました。この施設には、年間およそ40,000人の宿泊者があり、平均すると毎日100人以上が泊まっていること、その内の40人ぐらいが外国人という状況の説明もされました。この施設は3,400円程度から泊まれること、世界のユースホステルも同程度の料金で宿泊でき、大変割安であることを説明されました。

佐藤さん自身、ワーキングホリデーに行くまでは、メジャーな旅雑誌などに紹介されるようなものが旅行であるといったイメージを持っており、海外に行く必要を感じない、日本で生きていけばよいというタイプの人間であったと話されました。友達に誘われたことがきっかけで、海外に一人で行くことができたという達成感から、広い世界に興味を持ち始め、いろんなものを見たいという思いが湧き上がり、ついには会社を辞し、世界放浪の旅に出ることになったと話されました。

今回は、「旅のイメージは?」「旅の思いでは何ですか?」「行ってみたい場所はどこですか?」といった質問をされ、それぞれの考えや思いをメモさせ、隣の学生同士でシェア(語り合う)する時間もありました。

“旅”を通じて、「何を見る」ではなく「どんな人に会えるか」という楽しさに気づき、自分の思いを伝える、通じなくてもへこたれない、「なんとかなる」という度胸が身についたと話されました。また、外に出たからこそ、日本のことを知らない自分に気づいたこと、多くの人に助けられることも多く、今度は自分が助けてあげたいという思いが湧いてきたと語られ、人と出会える「ワクワク感」を持てる機会や場を作りたいという思いが、今の仕事や活動に結びついたということも聞かせていただきました。



最後に、ユースホステル設立の経緯や歴史にも触れられ、「単なる『宿泊施設』の運営ではなく『宿泊機能のある教育施設』の運営を行うこと」「教育的な効果がある“旅”の活動をサポートすること」であるとの理念も説明されました。

また、世界にはお城や元刑務所、さらにはジャンボジェット機を活用したユニークかつ豪華なユースホステルも多くあることを豊富な美しい写真で紹介いただきました。

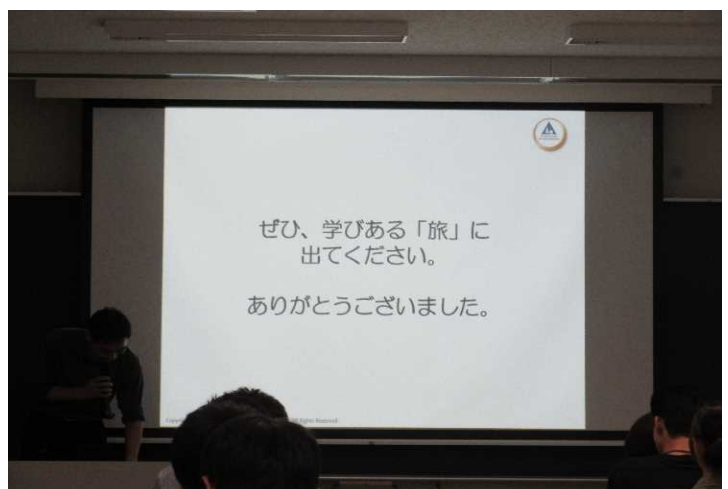
佐藤さんの実体験に基づく熱い思いは、しっかりと学生の皆さんに伝わりました。最後に、『“旅”には学びや気づきがある。ぜひ、学びある“旅”に出てください』という素晴らしいメッセージと共に授業を終えました。終了後、佐藤さんの取り組みに非常に興味を持った学生もあり、熱心な議論を交わしていました。



コックピットを改造したユースホステル室内



スイスのユースホステル

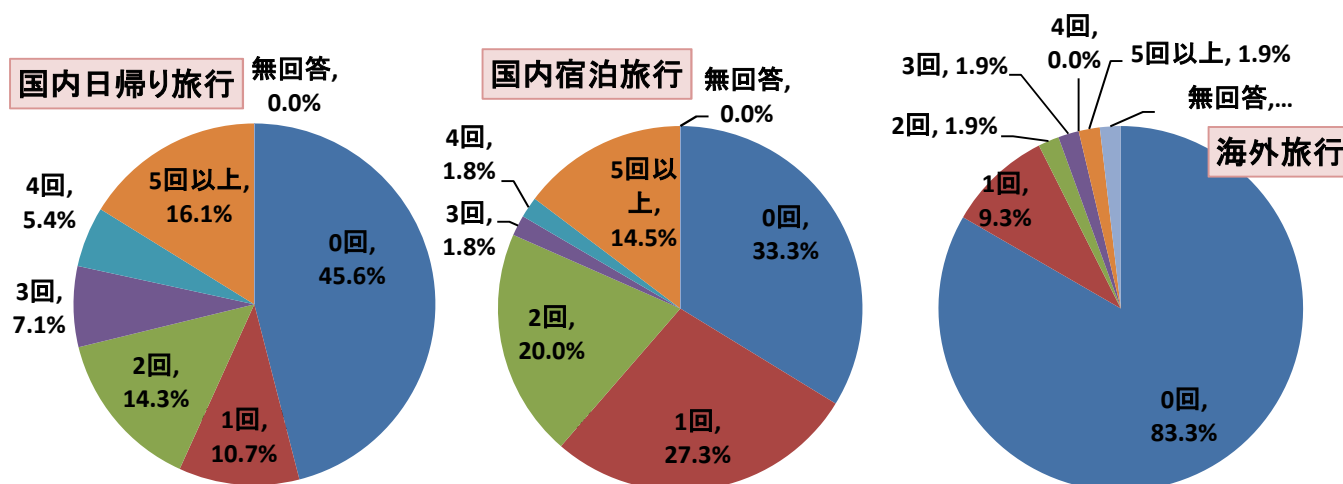


若旅★授業(京都学園大学2018.5.31)アンケート結果概要

○事前アンケート

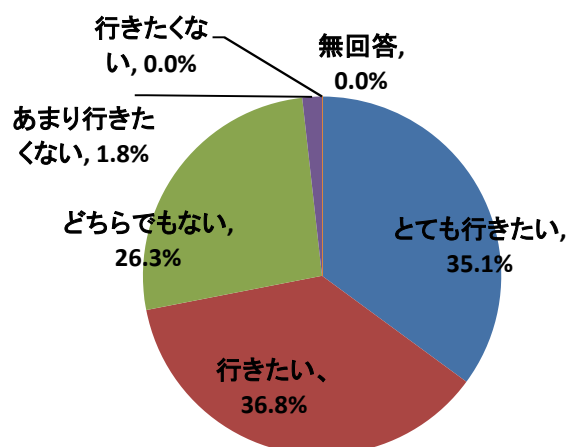
【授業を受けた生徒さんのアンケート結果】(n=57)

- (1) あなたは年に何回程度、国内旅行(日帰り・宿泊)および海外旅行をしますか。
それぞれお答えください。



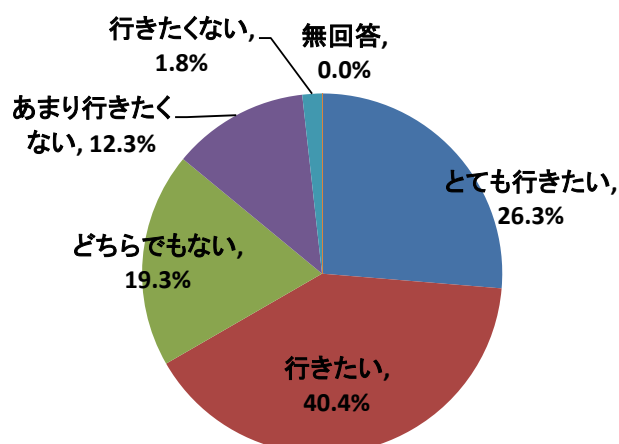
- (2) 国内旅行に対する意欲を教えてください。

「とても行きたい」「行きたい」の回答を合わせると71.9%という数字になりました。
「あまり行きたくない」は1.8%、「行きたい」は0%でした。



- (3) 海外旅行に対する意欲を教えてください。

「とても行きたい」「行きたい」の回答を合わせると66.7%という数字になりました。
「あまり行きたくない」は12.3%、「行きたくない」は1.8%でした。

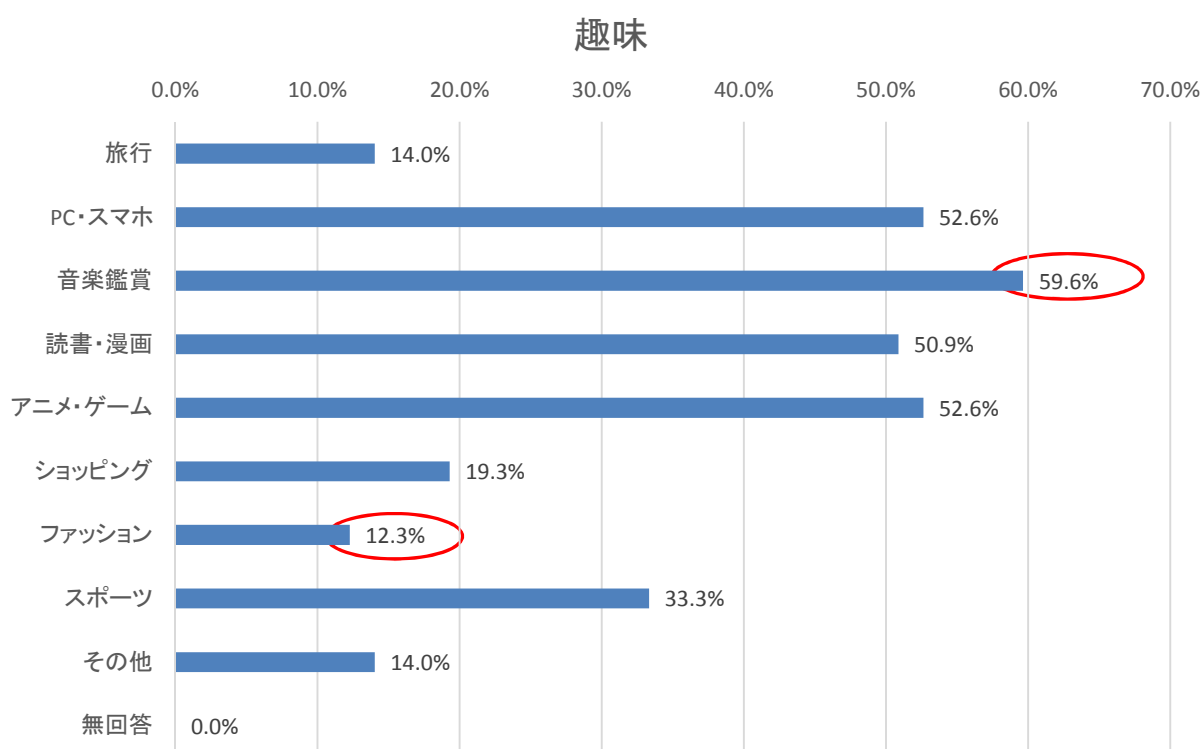


(4) 行ってみたい旅行先や旅のスタイルを教えてください。

行ってみたい旅行先については、国内では北海道(16)、沖縄(4)、東京(4)、東北(3)、九州(2)ということで、北海道が大きく他を引き離れた数字になりました。

海外では、ヨーロッパが一番多く、特にフランス・イギリス・ドイツ・イタリアなどが多く全体で(30以上)が挙がっていました。次いで多かったのはアメリカ(6)＋ハワイ(3)で、アジア圏は以外に少なく、台湾(2)、韓国、中国、タイ、インド、シンガポールはそれぞれ(1)というところでした。

また、旅のスタイルでは、一人旅(17)、次いで友人旅(9)、家族旅(5)の順でした。日帰り(3)よりは宿泊(1泊2日、1週間、1ヶ月、長期 など)という回答が多かったです。また、ユニークなところでは、「原付旅」や「貧乏旅行」というものもありました。また、食べ歩き的なものも少しありました。



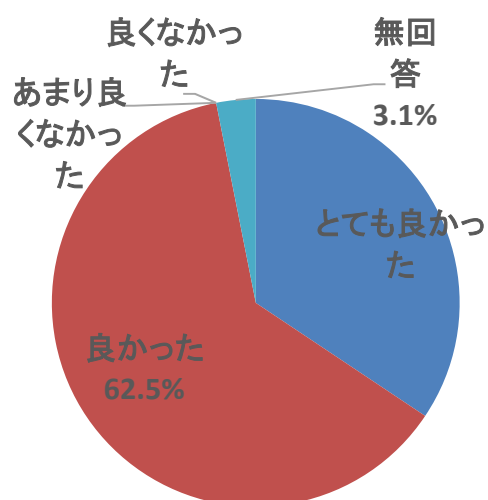
「旅行」が14.0%と少し低い数字になっています。「PC・スマホ」「音楽鑑賞」「読書・漫画」「アニメ・ゲーム」といった分野がすべて50%越えており、室内的な趣味が多いと言えます。バイオ環境学部ということで、やはりアウトドア系よりはそういった傾向が強いのかもかもしれません。ちなみに一番低かったのは、「ファッション」の12.3%でした。

○事後アンケート

【授業を受けた生徒さんのアンケート結果】(n=64)

(1) 今回の講演はいかがでしたか

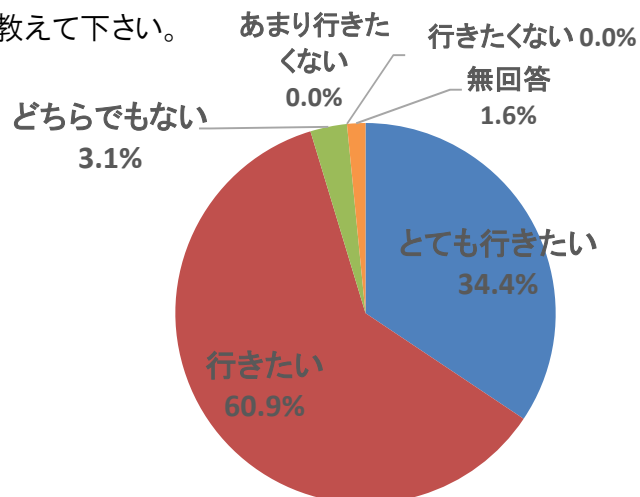
無回答(3.1%)の学生さんを除き、全員が「とても良かった」「良かった」と回答してくれました。素晴らしいですね。



(2) 講演を聞いた後の、国内旅行に対する意欲を教えてください。

今回の「若旅★授業」を受けて、34.4%の生徒さんが「とても行きたい」、60.9%の生徒さんが「行きたい」と答えてくれました。(合計95.3%)

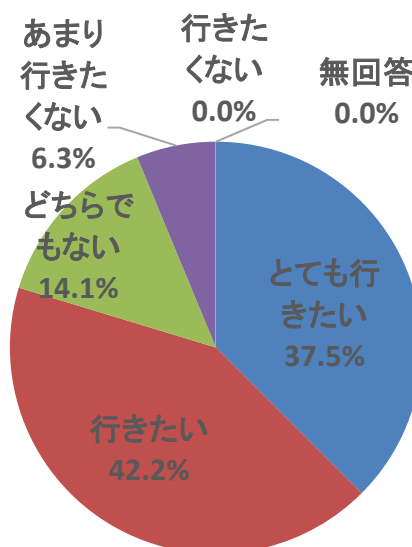
講演前の回答と比較すると、「とても行きたい」と「行きたい」の合計が95.3%で、23.4ポイントのアップになりました。素晴らしい結果になりました。



(3) 講演を聞いた後の、海外旅行に対する意欲を教えてください。

今回の「若旅★授業」を受けて、37.5%の生徒さんが「とても行きたい」、42.2%の生徒さんが「行きたい」と答えてくれました。(合計79.7%)

講演前の回答と比較すると、「とても行きたい」と「行きたい」の合計が79.7%で、13.0ポイントのアップになりました。こちらも素晴らしい結果になりました。



(4) 講演で特に印象的だったことを教えてください。

- 交流の場を作るべくさまざまな企画をしていらっしゃるということ。
- 海外旅行でも、あまり不安そうじゃないところ。旅を通じて人や町と触れあえる。
- 海外に対するイメージというか、「行かなくてもいいや」みたいなのが、一緒だったので、行ったら何か変わるのかもと思った。
- 旅行と観光の違い。旅の違い、旅をすることで得られるもの。「旅」のイメージと似た部分、違って

いる部分。

- 講師の方がどういう経緯で「旅」の仕事に関わるようになられたか。
- 「まいまい京都」、実際住んでいても京都全部には詳しくないから行ってみたいと思った。ガイドを一般の人がやる点が興味深かった。

(5) 講演でこんなことをもつと聞きたかった、こんなことをしてみたかったということがあれば教えてください。

- ホテル従業員は大変ですか？
- 日本の中で一番いいと思われるユースホステルはどこですか？
- 先生の行ったことのある国や場所の話を聞きたかったです。
- 今回の講義で話されていた内容以外で、「多くの人に助けられた」「自分も誰かを助けてあげたい」と思った思い出はありますか？また、人とつながったからこそ得られたものはなんですか？

(6) どのような取組を行ったら、若者が旅行に出ると思いますか。

- 若い大学生向けに、今回のような講義をすること
(まだ旅というものに対して具体的なイメージなどを持ってない人もいると思うから)
- ユースホステルの存在がもっと広がったら良いと思う。
(自分自身があんなに安くホテルに泊まれるなんて知らなくて今度使ってみようと思った)
- 旅行における事前準備、事前知識を教える簡単な講座
(おもしろそうな旅でも、一からその旅の特性を自分で調べるのは大変だと思うので)
- ネット配信、YouTuber
(若い人たちはよくYouTubeを見ているから、旅のものを作れば、若い人たちに見てもらえると思う)
- 京スイーツ旅(女子目的)
- 大学などと連携し、応募ではなく行事の一環として行う。
(全員参加の行事にすれば、休日のことを心配せず、なおかつ友達をできやすくなる)
講義を中学・高校向けに開催する。
(若いときほど、こういうことが必要で若い人向けにこのような講演を開くといいと思いました)
- 若者向けの日本1周ツアー
(若者の間で流行ると地域の活性化につながると思う)
身近な所からでも、外に出かけることを推奨すること。
(最近の若い人たちは、家に閉じこもりがちだと思うので)